

令和5年度 第1回下野市小中一貫教育推進協議会 議事録

審議会等名 令和5年度 第1回下野市小中一貫教育推進協議会
日 時 令和5年7月26日(水) 午後3時～午後5時5分
会 場 下野市役所 303会議室
出席者 海老原忠 委員、鈴木寧子 委員、田熊利光 委員、高橋修一 委員、
瀬端 徹 委員、松本文男 委員、峯 雅士 委員、中川賢一 委員、
菅井貞雄 委員、宮崎真人 委員、大塚洋子 委員、小野瀬善行 委員、
野澤 等 委員、大塩宗里 委員
【欠席委員】伊沢幸子 委員
市側出席者 石崎雅也 教育長
(事務局) 石島直 学校教育課長、森口哲二 同課課長補佐、土田礼巳 同課指導主
事、水本百合子 同課指導主事
公開・非公開別 (公開) ・ 一部公開 ・ 非公開)
傍聴人 0人
議事録(概要) 作成年月日 令和5年8月1日

1. 開会(石島課長)

2. 委嘱状交付

3. 教育長あいさつ

4. 委員紹介(自己紹介)

5. 会長、副会長選出

会長あいさつ

(小野瀬会長) ただいま会長職を拝命いたしました、宇都宮大学の小野瀬でございます。

少しお時間を頂いて、何故、小中一貫教育なのかと申しますと、全国的にみると少子化の流れの中で学校の適正規模をどのように各市町村で配置していくのかという対応があったと思います。

また、児童生徒の発達の状況が、70～80年前と今とでは違うのではないかという中で6-3制の見直しというものが出てきたのではないかと思います。さらに近年の大きな特徴としては、学習指導要領が大きく変わり、子どもたちが何を学ぶかということです。非常に量と質ともに高い意欲的なものになっているといえると思います。

よく子どもたちに求められる能力がコンテンツベースからコンピューターベースになったと言われていました。どのようなことかと言いますと、資質・能力が大切になり「何を知っています」では不十分で、知っていることを基に「自分の為に」や「地域の為に」何ができるかが非常に大切になってきています。そのようなことが日本のみならず世界的な特に先進国での潮流になっています。その知識を使って自分の為や地域の為に何ができるかという話になると、当然学校だけでなく地域の方の声を聴いてこういうことができるようになって欲しい、義務教育が終わった後にこういうことに力を発揮して地域に還元して欲しい、もちろん自分の為に能力を発揮して欲しいということを地域の問題として考えていかなければならないという流れの中で下野市は学校の先生方だけではなく、学校運営協議会や各地域の団体の皆さまが集まって子どもたちの育ちが今どうなっているか、そして義務教育、小中一貫教育が終わった時にこのような力を発揮して欲しいということを共有し、現状はどのようになっているのか、さらにこのような事ができるのではないのかということ話し合う場をこれまで積み重ねているのではないかと思います。先駆的な取組をされている面も非常に多いと思いますので、今年もそのお手伝いができることを光栄に思いますし、下野市の子どもたちの為に今回、学校の先生、地域の団体の関係者様、そして接続する保育園、高校の先生からなるこの場で忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞ、よろしくお願いたします。

副会長あいさつ

(大塩副会長) 副会長に指名されました大塩と申します。2～3年この会議を離れておりました。改めてこの席に座らせていただく事に恐縮しておりますが、よろしくお願いたします。

6 小中一貫教育推進協議会の開催趣旨について

(小野瀬会長) まず、小中一貫教育推進協議会の開催趣旨について、事務局から説明をお願いします。

(森口補佐) [資料2：下野市小中一貫教育推進協議会の開催趣旨（令和5年度）について説明]

(小野瀬会長) ただ今の説明について、ご質問等ありましたらお願いたします。
(質疑なし)

7 報告

(1) 本市の小中一貫教育について

(小野瀬会長) 続きまして、「本市の小中一貫教育について」について、事務局から説明をお願いします。

(土田指導主事) [資料：「小中一貫教育ハンドブック」他について説明]

(小野瀬会長) ただ今の説明について、ご質問等ございましたらお願いたしま

す。

(中川委員) 施設一体型の小中一貫教育でいうと、児童生徒数の適正規模はあるのでしょうか。石橋中学校区でいいますと、4つの小学校がありますのでかなりの人数になります。行事を運営するに当たり先生方の負担も大変ですし、目の行き届かない事もあるかと思えます。

それぞれの各校行事は素晴らしいのですが、規模によってできることとできないこともあるでしょうから、例えば石橋中学校区を二つに分けて考えるなどは有りなのでしょうか。

(小野瀬会長) 重要な視点かと思えます。下野市は施設一体型、施設分離型、施設隣接型と3つの柱でそれぞれの特徴を基にしながら小中一貫教育を進めていますが、中川委員がおっしゃる適正規模はどのように考えるのかについて、別な会議が設けられておりますが、ここで事務局から何かございますか。

(事務局：具体的にはありません)

(中川委員) 目安というのがあるのかなと思質問しました。南河内小中学校は理想的ではないかと私は思います。

(小野瀬会長) ありがとうございます。その他の委員の方で質問はございますか。

(質疑なし)

(2) 本年度の各中学校区における推進について

(小野瀬会長) 続きまして、本年度の各中学校区における推進内容について、各中学校区の代表委員より特に地域連携の視点からの説明をお願いします。

中学校区ごとに報告を頂き、最後に質問という流れで行いたいと思いますので、最初に海老原委員からお願いします。

(海老原委員) [資料：南河内小中学校 小中一貫教育グランドデザインについて説明]

(鈴木委員) [資料：南河内第二中学校区 小中一貫教育グランドデザインについて説明]

(田熊委員) [資料：石橋中学校区 小中一貫教育グランドデザインについて説明]

(高橋委員) [資料：国分寺中学校区 小中一貫教育グランドデザインについて説明]

(小野瀬会長) 各中学校区からの報告がありましたので、ご質問等はございますか。

(中川委員) 南河内小中学校の45分授業と50分授業で、チャイムはどのようにされているのでしょうか。

(海老原委員) ノーチャイムです。

(中川委員) 古山小学校でもコロナ禍でノーチャイムにして、休み時間に一斉に

外へ出ていかない様にしていたとの事です。宇都宮商業高校でも45分授業と50分授業の時で分けているとの事です、何かきっかけはあったのですか。

(海老原委員) 時間がずれると一部の子どもたちは休み時間で一部の子どもたちは授業を受けているという状況になってしまいます。また、後期課程の教員が前期課程の授業を行ったり、前期課程の教員が後期課程の授業を行うこともあるので、時間を合わせないと相互乗り入れができない事になります。

また、5年生までは基本的に45分なのですが、「ゆとりの5分間」というものを付け加え、その時間の使い方は担任の裁量に任せています。そのように時間を調整し、給食や掃除の時間が一緒になるようにしています。

(中川委員) ありがとうございます。南河内第二中学校区の心づくりチームで「良いところに目を向ける」という話がありましたが、具体的にどのような取り組みられているのでしょうか。

(鈴木委員) 表と裏のように、「明るい」という行動にしても「明るい(けどうるさい)」、では「明るい」という良さを伸ばしていくためにどうすれば良いのか、良いところに目を向けて話し合うことで、実は課題の改善にも繋がっていく事になります。できないところを指摘してできるようになるためにすると、小学生はどうしても罰を作りたがりますので、そうではなく、できている所に目を向けて更に良くする為にはどうしたら良いのかという働きかけをしていくのが、心づくりチームの中で話題になり、それを各校で言葉の掛け方などを工夫しながら第1回目を実施しました。

(中川委員) ありがとうございます。石橋中学校では地域連携ということで、今年の初めに書初め大会でお世話になり、ありがとうございます。

また、先日国分寺小学校にお邪魔したときに、いじめ防止のスローガンを拝見したのですが、これもこの中に入るのですね。

(高橋委員) はい。こども未来プロジェクトの一環になります。

(中川委員) とても素晴らしい取り組みで、先ほどの鈴木委員の説明で「お互いの個性を・・・」という言葉がありましたが、もう一度教えて貰えますか。

(鈴木委員) 「お互いの個性を認め合い 笑顔の花を咲かせよう」になります。

(中川委員) とても良いスローガンだと思います。このようなスローガンをもっと活用できれば良いのではないかと思います。

(峰委員) 先ほど南河内第二中学校区の鈴木委員からご説明がありましたが、先日子ども未来プロジェクト会議がありまして、自分の子どもが祇園小の代表ということで参加させていただきました。いじめをなくすためにどうすれば良いのかというテーマで小学生と中学生が話し合っ

たことで感想を聞いてみたら、中学生はとても優しかった、中学校の生活についても話してくれたので中学生になる不安が減って安心した、中学生なるのが楽しみになったと話してくれました。また、小学生の頃から直接中学生と交流する機会を設けると自分が中学生になるという意識が強まり、進学不安も減る良い取り組みだと思ふとの事でした。

(鈴木委員) 当日はとても和やかな雰囲気です小学生も堂々と意見を発表し、中学生もそれを全部受け止めてくれていました。事前に議題は伝えられておりアイデアやキーワードは準備してきたのですが、当日は「この言葉は小学1年生には分からないよね」などと練り上げてると印象を受けました。

(菅井委員) 南河内第二中学校区及び国分寺中学校区で体操を取り入れた写真が掲載されていますが、どのような効果があったのでしょうか。

(鈴木委員) 南河内第二中学校区の共通体操において、新体育テストの結果において数値が向上したという結果は、まだ1年余りであるので見られてはいないのですが、心理的な効果としては、小学校で学んだことが中学校で活かされる、繋がるということが実感できることは効果としていえると思われまふ。

(高橋委員) 国分寺中学校区も本格的に取り入れるのはこれからということだ準備段階ですが、まず小学校5～6年生ができる所から取り入れて中学校に進学した際にスムーズな連携に繋がることになると思われまふ。

(菅井委員) ありがとうございます。もう一つ、私は地域でお囃子を教えているのですが、コロナ禍でお祭りがなく小学生の参加も減って困っておりましたが、ここ2～3年ほどは中学生が練習に来てくれています。これまでは小学生とは一緒にできないなどと、中学生になると辞めてしまっていたのですが、最近、休憩時間などでも小さい子の面倒を見てくれるなど、このようなことも小中一貫教育の良い影響なのかと思われまふ。

(小野瀬会長) ありがとうございます。校長先生から小中学生の交流や体操に関してこれからという事でありましたが、他にも地域での様子などの事例を挙げていただき、ありがとうございました。

これまではコロナ禍で具体的な交流もできませんでしたが、油断はできないとはいえ、先ほどのご報告から徐々に具体的な交流が始まっているなという感想をもちました。また、第2回の会議では今年度の実績などのご報告が頂けるものと思われまふが、引き続きよろしく願われまふいたします。

8 議 事

(1) 今後の推進について

(小野瀬会長) それでは議事に入ります。今後の推進について、先ほど委員からのご発言にもありましたが、下野市の強みとして地域との連携を進めながら子どもたちの学び・育ちを見守っていくといった中で、例えば読書活動を軸にして進めていくといったことや、学校の中での成果指標をこのようにすれば、より活かして行けるのではないかなど多角的にご発言を頂ければと思います。

また、ご報告頂きました校長先生からも、このような所で少し地域の力を借りたいなどがありましたら、ざっくばらんに意見交換できればと思います。

(大塩副会長) 推進計画も第Ⅳ期に入っており、ここまで進んでいるともう各中学校区とも発表のレベルまで来ているのではないかと感じました。

特に縦割りでの効果や挨拶の効果の他に外国語学習などでの小中の連携が十分なされているとの事で、大きな目標である円滑な小中一貫教育にもう迫りつつあるなと感じています。

ただ、そこにスパイス的な要素として取り組めるのが、地域との繋がりがということが挙げられるのではないかと感じました。特にその中で学校に置かれている地域連携教員が各校区で連携を取られているのはとても素晴らしいことで、この当たりがこれからの推進に必要ではないかと思えます。また、地域連携教員だけでなくコーディネーターなども巻き込んだものが入ってくると小中一貫の円滑な流れが出てくるのではないかと思えます。

(小野瀬会長) ありがとうございます。これまでの小中一貫教育の取組を見守りつつ、コロナ禍を経て様々な所が加速していくのではないかと思えます。

また、先ほど地域との連携をスパイスにというお話がありましたが、ともすれば、私個人の感想になってしまいますが、学校の先生がよくやり過ぎてしまうが故に、子どもたちの学びというものがある意味閉じてしまうとすごくもったいない。小中一貫の9年間でこのような学力を身に付けましたというような事は、それはそれで意味がある事ですが、それが社会教育や生涯学習、高校・大学への進学、引いては地域の為にどのような学力を身に付けたのかに繋がらないという事が起きてしまうのではないかという事です。国が小中一貫や中高一貫教育でよく言うのが単に受験学力を上げる為に行うのではないという事で注意して欲しいと、裏を返せば受験教育の早期化になってしまうので、全国学力・学習状況調査などはありますが、委員のご発言にもありましたが、例えば地域の中で身近な後輩たちを育てていく力などはどうなのかなどが問題となっていくのですが、そのような所は下野市の取組というのは、可能性があるのではないか。ただ、一方で地域の方々から見るともう少しアピールした方が良いのではないか

等があれば、ご発言をお願いいたします。

(野澤委員) この4月から自治会長をさせていただいているのですが、地域の若者が行事に参加しないことに困っております。コミュニケーションを取ろうと、行事を実施しても参加してくれなくて、小中一貫教育とは違う話になってしまいますが、いま委員の皆様のお話を聞いた中で、連携を取って縦の繋がりができて上手くいっている所で、それを地域にも還元できるようになってくれれば良いと思います。

(小野瀬会長) ありがとうございます。地域に貢献できる人材を増やしていく事も自治体をこれからどうしていくかという事にも繋がっていくと思います。

(大塚委員) この会議に参加させて頂いて、幼児・保育教育の現場も見直さないといけないと感じております。保育の現場では小学校入学までに望ましい10の姿ということで、取り組んでいます。その10の姿が集結するとこのグランドデザインの3つないし4つに分かれていると思いますが、学びという事を私たちがどれだけ子どもたちをワクワクさせることができるか、子どもたちが好きなことにどう寄り添えるかという事に取り組まないと、小学校の学びに繋がらないのかと感じています。心についても、自己肯定感が低いとか自信のない子どもたち、保護者にも多いと感じますので、保育の現場としても一人ひとりにできるだけ寄り添って安心して過ごせる場を提供する事がスタートかなと思っています。また、体についても学校で共通体操をされている所も多いようなのですが、体の不器用さも幼少期から感じていて、小学校の体育どころか歩いて通学できるのか心配なお子さんもいますので、体力を付ける活動も行っています。

地域との連携で読み聞かせについてお話がありましたが、高学年の子どもたちが下の学年の子どもたちにしてあげるとのことでしたが、その高学年の子どもたちに読み聞かせをしてあげる機会はあるのでしょうか。大人になると誰かに読んでもらうという事は無くなります。私たち保育士も読み聞かせの研修に参加するのですが、大人になって誰かに好きな絵本を読んでもらうというのと忙しく生活しているから心が穏やかになるので、高学年の子どもたちももしかしたら逆のパターンで読んでもらうという経験があると、これから受験などの大変な時期が待っているのでは心身の安らぎになるのではと思いました。また、地域の方で語りをしている方がいらっしゃいます。本がないだけで想像力を働かせながら聞かないと話の内容が分からなくなってしまっているので、保育園にも来ていただいているのですが、最初は話が難しいと感じるのですが回を重ねるに連れ面白さが伝わってきている感じがしています。

また、保育の現場でも地域の連携は課題としていまして、先日保育

園でお神輿などの夏祭りを実施した際には、昔遊びなどで材料などを自作してくださる方もおられて、地域には様々な方がいらっしゃるなと感じました。

(小野瀬会長) ありがとうございます。読書活動についてもコミュニケーション能力の質をどのように上げていくかが大切になっていくものと思います。

(宮崎委員) 保護者の立場からですと、地域と学校というのはよく話に出てきますが、恐らく一番密接にいななければならない保護者の事が中々出てこないかと感じています。野澤委員がおっしゃっていましたが、若者が中々地域の行事に参加しないというのは、私たち子育て世代が一番無関心なのかと何となく感じています。小中一貫教育に取り組んでいることも、余り良く分かっていない保護者も多いと思います。特に南河内小中学校は義務教育学校になりましたが、何となくそのような事をしているのだなど、小中一貫教育と義務教育学校はどう違うのか区別が付かない保護者も多いと思います。それに対して私もどうしたら良いなどは言えないのですが、このような会議に参加させて頂いている立場としては、その懸け橋になればと努力していかなければならないと感じています。

(瀬端委員) 石橋高校の話をして頂くと、この春までは下野市出身の生徒は10%を切っておりましたが、今年は11%程度と二桁に戻ってまいりました。しかしながら、地域の受け皿になれているのか心配な所があります。小中一貫教育で先生方も連携されており、そのような地域の子ども達の受け皿としてしっかり受け入れられるように地元の高校としてもっと魅力ある学校にしていかなければと思います。また、これまで読書についてのお話が多く出てきましたが、小中学校でもっと本好きな子どもを育てて欲しいと思います。高校でも読書の推進は一生懸命しておりますが、二極化しております。月一冊も読まない子が8割以上おり、その理由としては学習面や部活動等で忙しくて読んでいる暇がないというのですが、好きな子は時間を作ってでも読みますのでそのような子は国語力だけではなく物の考え方もしっかりしており、それが結果的に大学進学への学力に繋がっていると思います。

(松本委員) 地域には様々な分野に精通した人材が沢山います。地域からも学校へフィードバックできるような仕組みづくりが必要なのではないかと思います。

(小野瀬会長) 読書活動という事で幼小中高で続く学力が見えて来たかと思いますが、活字離れと良くいわれますが、様々な媒体で文字情報を読んでいるのではないかと、ただその読んだことの交流が難しいのではないかとされていますので、読書活動と言いつつ子ども達がどのような交流を図れたのかという情報共有が大切になってくるかと思っています

し、成果指標一覧について触れられなかったのですが、先ほど保護者がもっと知るべきことがあるのではないかというお話もありました。教育委員会事務局でも指標を上手くアピールしながら小中一貫教育はこういう意義がありますよ、などと伝える事ができるのではないのでしょうか。

(2) その他

(小野瀬会長) では、最後にその他という事で、委員の皆様から何かございますか。

(大塩副会長) 学校では侵入者などのニュースがあり心配しているのですが、私の自治会公民館でも外のトイレの紙が燃やされる事件があり、これが学校で起こっては大変でありますので、ご注意ください。

(小野瀬会長) ありがとうございます。本日の議事内容は、以上になります。活発なご協議、ご協力ありがとうございました。

9 事務連絡

10 閉会